

伊賀市総合計画審議会 意見・対応一覧(第5回)

No	頁	意見(質問)	対応意見・回答	事務局(行政)対応	備考
基本構想中間案					
1	3	「今後の動向」にしてはどうか。	⇒どう違うのか。 ⇒同じだが、傾向は無責任に感じる。動向の方が前向きな感じがする。 ⇒経済の動向という。傾向というとな自然な変化。戦争等の大きな動きがあれば動向もいいが、私は傾向でいいと思う。	原案どおり	
2	4	折れ線グラフはP3のピラミッドがあるのでなくていい。比率については棒グラフの65歳人口に率も入れてはどうか。	⇒両方あっても、よくわかるのでいいのではないかと。 ⇒生産年齢人口が減少する中で、それを支えることが分かるように、現状でいいのではないかと。 ⇒棒グラフに数字を入れれば確かにわかるが、今のように二つのグラフとするほうが市民にとっては丁寧。 ⇒なぜ75歳以上のグラフが必要なのかということ、超高齢化社会になっていくということなので、このままの方が良い。	原案どおり	
3	4	グラフにも西暦を入れていただきたい。世界は西暦で動いている。	⇒他の部分も全て追加することになる。本文中はまだしも、グラフにももう一つ括弧書きの数字を入れると見にくくなるのではないかと。 ⇒グラフに併記すると非常に見にくい。ここで言いたいことは、平成37年(2025年)がとんでもなく大変な時期になるということ。過去からのトレンドを追うということでは西暦がいいが、これを眺むのは市民なので、市民にわかりやすいように、昭和にかかるとするグラフについて、昭和55、平成22、32年が西暦では何年かということとをちょっと付記しておけばいい。 ⇒明治大正と50年、100年の間隔で話をすれば西暦も必要だが、10年のスパンだから平成の中の話であり、シンプルに「平成何年」でいいのではないかと。	P5。「伊賀市における年齢別人口の推移及び推計」の昭和55年、平成22年、平成37年、P7の「伊賀市における世帯類型別世帯数の推移」の昭和55年、平成22年、P8の「伊賀市における歳入の状況」の昭和60年、平成22年について、西暦を併記。	
4	4	「平成37年(2025年)」を赤字にしてはどうか。		平成37年を太字に変更。	
5	4	政府の統計はどうか。	⇒元号です。	原案どおり	
6	6	交付税のグラフはなぜ増加分だけか。全体のグラフがほしい。	⇒今後、交付税制度がどうなるかということ、消費税率がどうなるかが分からない中では、はっきりした数字は言えない。 ⇒上乗せ分が減額となるとということしかいえない。	原案どおり	
7	6	私も知らなかったが、合併算定替えによる増加分が減額するという事なので、その辺の説明を追加してほしい。	⇒H25年は総額がいくらですという参考数値を入れつつ、そういった減額の説明を入れてはどうか。	平成25年度の地方交付税総額を明記しつつ、グラフについては増加分の推移であることの説明を追記する。	
8	7	公共施設が多いので減らすということで書かれているが、公共施設が多いほうがいい。市民にとっては近くにあっていい。無理ばかりは言えないが、悪いとはいえない。「難しい」ではなく、公共サービスの水準を頑張って維持してほしい。公共サービスを維持するのは難しい、と書いてあるが、水準が低下するのは。生活は苦しくなるということか。公共サービスの水準を向上するのはかなり難しいというのは市民に不安を抱かせるのはおかしい。納得できない。それぞれの施設を市民は利用している。維持していく必要があるということも考えていかないといけない。	⇒現実に難しいということ。 ⇒たくさん公共施設のメンテナンス等もあるので、厳しい財政状況を受けて選択と集中ということで記載されていると思っている。 ⇒厳しい、難しいということは素直に書いたほうがいい。前回の意見対応にも、分野別で書くとすることなので、そこで改めて意見をいただきたい。 ⇒市民一人一人に危機感を持ってもらうためにも、難しいというのは必要。 ⇒P7は現状の認識のため必要。P15で改めて、行政の姿勢としては維持が必要だと延べているので全体としては理解してもらえないのではないかと。 ⇒今後パブリックコメントもあるので、原案どおり残しておいて意見をまたいただきたい。	原案どおり	
9	7	市の支出の全体像が見えない中で、公共施設がいきなり出てくるが、支出の全体の内訳が必要ではないか。全体の中の位置づけはどうか。	⇒「入るを量りて出るを制す」というのが、今後は歳入を量れない、出し方を根本的に見直すしかない時期。公共施設はどんどん老朽化していく。建物、道路、橋、など。水道等も伊賀は大丈夫かなと思う。インフラの維持のためにどうお金を捻出するか。今やっているような市役所が何もかもやっていることから変えていく必要があり、これからの計画の根本となる。入りと出の見通しは欲しいが、入りを見通せない中で、この計画を推進する中でどこをどうしていくか、公共サービスの水準をどう維持していくか。今の段階では決めたい。どこでどう推進していくかが再生計画の中での議論になる。今のところP7はこのままで提示するだけでいいのではないかと。	原案どおり	
10	13	人口減少社会であっても必要です」具体的だが、単に「人口減少をビジネスチャンスと捉えることが必要です」程度でいいのでは。医療福祉関連のニーズに付け込む悪い業者もいる。需要はあるに決まっている。他にも人口減少社会をビジネスチャンスと捉える産業はあるので、医療福祉を特に言わなくてもいいのではないかと。	⇒後の重点プロジェクトで観光のことをメインで打ち出している中で「交流人口を増やす」は削れない。医療福祉関連産業のビジネスチャンスということを変えてはどうか。 ⇒交流人口は「観光・農林業」、医療福祉産業が「医療・福祉」の重点プロジェクトにつながる。伊賀市全体を対象とする、民間のビジネスもあれば、むしろこれから重要になっていく、どう狭い中で助け合っていくかという共助の仕組みにもつながる。 ⇒医療福祉関係をボンと投げってしまうようなことが不安で良くないということだと思ふ。需要をつかむという言い方だと悪徳業者を呼び込むように聞こえてしまうが、今まで行政で担っていたような医療福祉のことを、民間の方でビジネスベースで回っていくような仕組みを作るという、ローカルなコミュニティビジネスの成立というようなことがニュアンスとして入ってくる必要があるのでは。 ⇒人口減少社会はビジネスチャンスということだが、マーケットは縮小する。ただし成長する産業もあって、交流関係と医療福祉ということとまとめていく。 ⇒共助としてのコミュニティビジネスとして捉えるのか、活力として捉えるのかで変わる。ここでは働き口であったり若者の定住であったり想定して地域の活力作り元気作りと捉えているのではないかと。	「人口減少社会により国内市場が縮小傾向であっても、乗客交流や、医療・福祉関連産業など成長が見込める産業への需要をつかむことも必要です。」に修正。 (庁内会議での検討による)	
11	14	65歳以上の方が活躍できる、生産者として活躍できるということを入れた。「地域の女性の力及び高齢者の力」とするなど。	⇒あえて入れなくても、農林業は高齢化している。若者を何故入れないのかと逆になってしまう。 ⇒現在担っているのが高齢者で、後継者のくんだり「高齢者にも引き続き頑張っていたできながら、次の時代の担い手を作り…」としてはどうか。 ⇒定年は意味がある。高齢者で元気でない方が比率としては多い中、高齢者をこき使うように書かない方がいい。	「引き続き高齢者に活躍していただきながら次の時代の担い手を作り、うまく引き継いでいくことが大切です。」に修正。	
12	17	土地利用計画図。やっぱり面倒でも集落と山をまめに色塗りしてもらいたい。希望が丘、鳥ヶ原が山吹色になっていない。既存の市街地、農村、農林部分がそんなに変わらないだろうと思うので。	⇒都市マスは可能な限り計画を図面に落とすことをやっている。この図面を変えるということは計画の変更を伴う。このままでないといけない。 ⇒計画図ということで、市民は自分の家はどうかと見る。このまま、そうなのかと理解してもらったならそれでいいと思う。	原案どおり	

No	頁	意見(質問)	対応意見・回答	事務局(行政)対応	備考
【再生計画(原案)】					
13		要望。一番大事なのは、計画の推進のところ。進行管理の仕組みに今までは違うものが求められる。連携・協力の促進についてもバラバラの主体をどう結びつけるのかということについて、なるべく早いうちに事務局から案を出してもらいたい。		—	
14		重点プロジェクトに出てきたもの関連政策があるが、分野別のところに同じものが出てくるのか。	⇒分野別ではもう一段階細かな事業が書かれる。施策として共通する部分はある。	—	

No	頁	意見(質問)	対応意見・回答	事務局(行政)対応	備考
【医療・福祉】					
15	7	<p>「地域ケアネットワーク会議」を住民自治協議会が主体となる」とあるが、主体は市であるべき。高齢化等により住民自治協議会が維持できないのではないか。個人情報保護と利権が絡む。全国的には悪い例もあり、行政が担うべき。今のままではよくない。地域というのは派閥等もある。近所に知られたくないこともある。プロでない方が介護等をするなど逆効果ということもある。全国的に機能していないという現実がある。</p> <p>⇒地域ケアネットワーク会議とはどのようなものか。プロには話せるが近所の人には話せないこともある。何でもかんでも住民自治協議会というのは無理がある。</p>	<p>⇒地域ケアネットワーク会議と地域包括ケアシステムとは別のもの。現在市内6箇所設置。高齢化によって参加できない地域も出てくる。設置から軌道に乗るまでは市、社協と協働で進めている。地域特有な課題は地域で考えていただく。現在、第2次地域福祉計画でも位置付けている。個人情報というものについては、過去地域でケアネットワーク会議の趣旨は、すべてのケアをするのではなく、買い物など課題を出し合うということがある。課題は地域によって違うし、すべての課題を解決できるわけではないが、課題の共有も目的であり、ご理解いただきたい。</p> <p>⇒地域包括ケアシステムについて、図だけで説明がないので読み取れない。配食サービスなどインフォーマルなサービスを地域のボランティアなどで提供できるようにすること。この図では主体が分かりにくいので、地域での地域ケアネットワーク会議だけ書いてあると、地域に丸投げしているように感じられるのではないか。医療に比べて、福祉についてはケアネットワーク会議だけ書いてあるが、この記述は丁寧さに欠ける。</p> <p>⇒地域ケアネットワーク会議はその地域が介護をするのではない。それは住民自治協議会。地域包括ケアシステムの構築については市が主体と書いてある。</p> <p>⇒住民にとっては相談できる場所が幾重にもあるということが安心につながる。地域ケアネットワーク会議の構成委員に専門家を入れることにより地域課題を拾い出し、そこから地域包括ケアシステムにどうつながるかということが大事。</p> <p>⇒社会保障制度改革国民会議も2025年ということを謳った。文科省も学校五日制を3年以内に見直すと言っているなど、政府は、消費税を上げることを国民に納得してもらうために、色々な形で地域でやってくださいと言うだろう。伊賀市では合併時にそれを見通してその基盤となる住民自治協議会を作っている。それを改めて重点プロジェクトにしないといけないぐらい、国も地域も切羽詰っている。ケアネットワーク会議を住民自治協議会が行政の支援を受けながらやっていくのは正しい。包括ケアシステムはまだこれから。国は要支援を介護から切り離し、市町村でとっていただく。地域に受け皿がなければ名古屋や大阪の民間事業者に国からのお金が流れてしまうが、幸い伊賀には住民自治協議会があるので対応することができ、地域でお金を回すことができる。</p>	「医療、介護、在宅支援が一体的に提供されるしくみ(地域包括ケアシステム)づくりに向けて、地域の中で生活課題やニーズの把握と共有化を図ります。」に修正。	
16	7	市長の最重要課題として位置付けているのに時間がないとかこの程度の資料で審議しろということが無理。在宅ケアの問題もたったの2〜3行。やり直すべき。		分野別施策で検討	
17	7	今案ではなぜ成果と取り組みに、地域ケアネットワーク会議と地域包括ケアシステムという別々の話を書いているのか。成果指標を作るためのものかもしれないが、市民にはわからない。一緒に連携ということで、書いていけばより分かりやすいのではないかと。全否定ではないが、今のよう議論を市民にさせてはムダ。よりストレートに、地域包括ケアシステムを作っていくということがわかるようにしてもらいたい。		成果と取り組みについては「地域包括ケアシステム」の記述に統一し、「地域ケアネットワーク会議」は、各主体の役割の、住民自治協議会の役割の中で位置付ける形で整理した。	
18	8	外国人をつれて病院にいくと、市民病院と岡波とで大きく差がある。市民病院はつぶれないのか。市民病院は診療かが少なく、ここではだめなので違う科へ回ってくださいということが岡波では可能だが、市民病院では無理。効率が悪いので岡波に行くことになる。 ⇒医師数が少ない。	<p>⇒一人の医者で見る数も限られるので、患者数は減る。入院患者も対応できない。どうして医師の確保をするのかということだが、医者にとって伊賀は魅力がない地域。伊賀のために働いてもらうのは伊賀出身者ではないか。伊賀出身の医学生に奨学金を出す等も長い眼では必要ではないか。研修医に法外な報酬を出した町もあるが、そういうお金の出し方よりも就学援助がいいのではないかと。</p>	原案どおり	
19	9	関連政策で、子ども、高齢者、障がい者への見守りだが、子どもについて教育委員会との関連はどうなっているのか。それがないとネットワークは組めないのではないか。	<p>⇒現在は医療と関連する地域福祉に特化しているので、今後分野別施策の中で議論したい。</p> <p>⇒重点プロジェクトとしても当然組み込んでいかないといけないと考えるがどうか。</p>	分野別施策で検討	
20	9	厚労省のHPの図の伊賀版を作って欲しい。 ⇒せめてここに厚労省の絵ではなくて、伊賀市として3年後はここまでいきたいという画にしてもらった方がよい。市内に地域ケアネットワーク会議もある程度かけるのではないかと。市民はこの厚労省の絵では分からない。	<p>⇒厚労省の図はあくまでも例示。</p> <p>⇒伊賀版ができれば変える。</p>	原案どおり	
21	9	責任者は市か。財源は別として、市が全体の総括者ということか。私が主治医としてどう働きかければいいのか、これでは全然わからない。地域丸投げではない、市が主体と分かればよい。	<p>⇒最終的には保険者である市となるが、市が全ての費用を出したら数年でパンクする。</p> <p>⇒患者ごとの事例によって、退院後に介護認定してもらって、ケアマネージャーについてもらい、生活保護を受けるとか権利擁護や有償運送のサービスなどさまざまなところへのつなぎができ、制度的なサービス以外のところを地域で支えていく仕組みということが包括ケアと理解している。</p> <p>⇒会長:ケアネットワーク会議と包括ケアシステムの役割の違いが議論になっているので、事務局の方で提案して欲しい。今のままでは市民に出しても同じことになるというのが大方の意見と思う。</p> <p>⇒掲載内容に異論があるというよりは、整理の仕方が分かりにくいということ。地域の説明にも入れたらいいので、大勢としてはアとしていただきたい。</p> <p>⇒基本的には重点プロジェクトを市民に示すということで、書き方について会長預かりしたい。</p>	「医療、介護、在宅支援が一体的に提供されるしくみ(地域包括ケアシステム)づくりに向けて、地域の中で生活課題やニーズの把握と共有化を図ります。」に修正。	
22	9	言葉の意味が良く分からないところもあるが、日本には隣組等昔からあった。何百年もやってきた伝統を守ってプロジェクトを組んでもらいたい。		原案どおり	

No	頁	意見(質問)	対応意見・回答	事務局(行政)対応	備考
【観光・農林業】					
23	11	P11、3段落最後。「地域産業…ブランド力の強化を図ることが重要です」とあるが、今のままでは「ブランド化」が農林産物のみにかかっている印象になる。地域産業にもかかる形で、「地域産業や農林産業のブランド力の強化によって活性化を図ることが重要」とすべき。	⇒何と何と何のブランド化を図ればいいですか。 ⇒例えば伝統産業と言ってしまおうと、それだけに目が行ってしまいがそれだけではない。 ⇒先ほどいただいた案。基本的に、観光から連携して、観光に特化した農林産物のブランド力の強化を書いたが、全体的を包括して農林産物のブランド化について書いていくということで見なおしたい。 ⇒ブランド力の強化が目的ではなく、産業を活性化していくことが目的だとしっきり書くことで「連携」の意味も出てくる重要な指摘。	全体的に文章を修正。	
24	11	位置づけと課題の文章の作り方。縦割りで別の担当者の文章がくっついている印象。最後の段落の長期的な活性化をどうするのかというのが見えないが、結局ブランド化することと伊賀のファンを増やすことしか活性化というのではないのか。ブランド化によって活性化を進める段落が最後ではないか。最後が活性化に取り組みます、ではその後何もない空白で、どうするかは何もないけど何かやらなくちゃね、という文章になってしまう。でないと「連携」という意味がわからない。縦割りでないか。	⇒最後に「市ぐるみの誘客とPR」の「内容」をみてがつくりきた。 ⇒重点プロジェクトがこのままの形で出されたのでは、中身がない。3年間でやることについて決めて、何をどうするのかは書かないと重点プロジェクトとはいえない。少なくとも、P12の取り組みについては最終的にもっと具体的にあげて行くべき。いまのところということであれば了とするが…。 ⇒観光と農林業の縦割りの書き方ではないかということは重要な指摘。 ⇒観光農林は今までの話とひっくり返されているのでP11などは全体的に書き換えが必要。 ⇒より多くの市民に意見をもらう機会も大事にしたいので、意見をいただいた方に修正案を確認していただいて一旦了としたい。	全体的に文章を修正。	
25	11	農業について、ブランド化とか菜の花、牛、米などがあるが、これらは伊賀の農業のトップを走っているが、これらを支えているものがあると思う。それを見据えてその基盤を支えていくという考え方をしないと10年後20年後崩れる。大規模な農地を持っているところは基盤整備ができるが、そうでないところで先祖伝来の農地を細々高齢者がやっている、その人たちの力は健在だと思っている。職業分類で言うと農業者でないが土に関わっている人は人口で5割6割あるんじゃないか。そういう人達が毎日やっている米作り野菜作りを評価すべきではないか。その人たちの営みを市やさまざまな機関がどう援助するのか東ねるのか。そこからブランドが生まれてくるというそういう考え方が必要。重要施策では3年間で本当にできることを書いたらいいが、分野別ではそういう視点で書いて欲しい。対して林業はちょっと違う。毎日山に入って山の手入れをしている人は本当に少ない。これが0にならないようにしないとけない。	⇒ブランドの具体例として、牛や米など確立しているものもあるが、着地型観光で林業をやっているところに交流を持ち込むことも必要。こつこつやっている人のところにどうやって流し込むかということのブランド作りのイメージが見えると連携ということにも意味が出てきて先が明るいと感ぜられるのではないか。	分野別施策で検討	
26	12	伊賀の特産品をもっと明確に出していくべき。伊賀らしさを出さないとけない。市民にも、何をどうしたらいいのかがはっきりわかる。観光と特産品をはっきりと関連付けて明記すべき。	⇒委員は特定のものに明記しない方がいいと言っている。ここで具体的に明確化しなくていいのでは。 ⇒この後で個別の施策が出てくるなら、ここで具体的にしないほうがいい。この町全体の価値を上げていきたいと観光協会でも考えている。 ⇒位置づけと課題に、具体的な米や牛等が出てくるのに、その後の取り組みに具体的なものが出てこないのはおかしい。重点プロジェクトの組み立てがどうなのか。 ⇒ご指摘ごもっともだが、重点プロジェクトの中では書ききれないので、分野別で書きたい。	分野別施策で検討	
27	12	観光商品をつくっていく中で大事なのが情報発信、おもてなし。取り組みの中に、いくつかの項目が書かれているが、行政は何もしないのかという印象があると思う。計画の中にIT(ICT)が出てこないのはなぜか。市HPを見たら観光情報が少ない。全国の中で、観光を重視している市のHPには観光がトップに具体的に書いてある。もっと利用の価値がある。以前ふるさと納税について意見したが、第2の人口としてみることもできるのではないか。おもてなしの心で接するというのが、観光客から聞かれるても分からないことが多いので、行政からの発信と観光教育(下呂市等がやっている)が必要なのではないか。伊賀市全体でこういう観光行政をやっているということの発信もやっつけば若者にも関心をもってもらえるのではないか。	まちを上げてFacebookの活用もつすべき。グリーンツーリズムや農家民泊や大地の芸術祭など核となるものが先に走っていくと他もついてくるのではないか。 また、3年間に実行する取り組みとして、情報発信としてはこれだけなのかということ。もっと膨らませる必要があるのではないか。市役所だけがやることを書く必要はない。市民もおもてなしをするのだから、地域の歴史やお城のいわれや芭蕉の俳句の10や20は詰みじれるようにするなどが3年間の目標として、市民のすべきことも書いていくのもいいのでは。	1つ目「観光入込客の増加を図ります。」を追加。	
28	12	観光物産に、アンテナショップについても梅田、池袋or渋谷に欲しい。菜の花プロジェクトは全国的にやっているのを伊賀に特化するように忍者をからめてはどうか。		原案どおり	
29	14	「人・農地プラン」について。国の政策として、人が農地にいないと崩壊してしまうということで、プランがないところには税金を投入しないよとなっている。市はプランを地域から出してれば応援するけど、という方向。しかし、プランがない地域は、新規取納者が来ても支援が出ないなど差別的な不利。もっと、伊賀市としてリーダーシップをとってどう進めていくかということ、どうすればいいのかというヒント等がないと、現場だけではどうすればいいのかわからないという実感がある。市全体として全地域でプランが出来るよう取り組んでほしい。今の書き方では、どうやったら活性化できていくか見えない。市がリーダーシップをとって地域地域で何らかの形でブランド化していくとか、情報発信するとかそういうところに統合されていくように、担い手の問題とか土地の問題であるとか？(売り？はつきり聞き取れず)の問題であるとかのヒントが入ってこない、と、「人・農地プラン」だけでは進まないと思う。	兼業農家が支えている伊賀の里山が基本にあって「人・農地プラン」を進めていくということを書かないと、このまま行くとTPP対応の農地集約や林業はもういいか、にしかつながらないし、着地型観光なども絡んでいかない。	「人・農地プラン」の作成・管理を進めます。」に修正。	
30	14	森林税について説明して欲しい。総合計画には乗せないのか。	⇒森林税は来年四月から導入するということ啓発している。住民税に上乗せ。県は間伐や育成等山がお金になる部分は県がやる。市は環境保全や森林を守る取り組み木育とうに使える。受け皿づくり等の制度設計を行っている。分野別にそれを活用した事業を載せていく。	分野別施策で検討	

No	頁	意見(質問)	対応意見・回答	事務局(行政)対応	備考
31	15	国の方でも色々考えていると思うが、それが出てこない。国が考えていることも入れていくほうが予算的にも大事ではないか。		原案どおり	